

そわにえ
Soigner



第14号

「Soigner (ソワニエ)」とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2008年7月15日発行

発行/東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
社団法人東京都看護協会内
TEL : 03-5229-1534・1520 / FAX : 03-5229-1524

| | |
|---------------|-------------|
| INDEX / | ステーション紹介…⑥ |
| さんぽみち……………① | エッセイ……………⑦ |
| 協議会総会報告……………② | 委員会報告……………⑦ |
| 看護フェスタ……………④ | 編集後記他……………⑧ |



絵：青木博昭くん

生きるということ

東京都医師会副会長 清水美津子



他分野融合型連携をめざしてとの副題のついた、「在宅医療実践ガイドブック」が東京都から発行されたが、第一部が漫画で具体的に、在宅医療について解説されている画期的な本である。作成委員会のメンバーを見てみると、医療と介護職に携わるさまざまな職種の方々の在宅医療に対する熱いところが、この本を完成させたのだなとを感じる。第二部は在宅医療マニュアルとなっている。その第3章に終末期の支援の中で、死の看取りについて書かれている。筆者の人生観、思いがそして願いが込められているように感じた。私が小さい時には死は身近なものであり、家族や地域の中での死であった。曾祖父、祖父から死とはということを経り物として頂いたような気がする。死の教育を周りの大人から自然に受けていたのだから。即ち死の贈り物として「生きるということの意味」を学んでいたのだと感じている。最近の悲惨な事件を起こす若い人たちがもう少し「死の教育」を受けていたら、もしかしたら防ぐことが出来たのではと考えたりする。

中学、高校の同級生で看護師の親友がいる。彼女は病院の看護師としての看取りに疑問と限界を感じ、「私たちが子供のころ祖父母を看取ったような在宅での介護が出来ないものか」と、在宅介護研究所を立ち上げた。在宅医療について、医療の心を彼女から多く学んでいる。皮膚科は死に直接関与することが少ない科であるが、外来診療の場で介護を受けている方々、介護している方々の声を聞き、医師会という組織を通して何か出来ることがあるのではと、地区医師会長時代に顔の見える連携をと働きかけたが、言うは易く実を結ぶのはもう少し時間がかかりそうであるが着実に前進している。

亡くなられた臨床心理学の河合隼雄先生の「医療と心」という著書の中に、入院中の患者さんが先生に言った言葉で、「あの看護婦さんいいでしょう」と言うので、「どうして」と聞いたら「あの看護婦さんは、心も身体も一緒に入って来るんですよ」と言ったと書いておられた。もう一度噛み締めたい言葉である。

